



消防隊



火災や災害時に迅速に出動し、人命救助や消火活動を行います。また、日常的な防火・防災啓発活動も担当し、地域の安全・安心を守る重要な役割を果たします。



▲危険を伴う屋内に進入しての消火活動



▲油火災での消火。高熱にも負けず消火作業！



救急隊



救急車で出動し、安全第一で傷病者を医療機関へ搬送します。救急車には救急救命士という国家資格を持った職員が乗車し、市民の安全・安心を守っています。



▲救急車で心肺停止状態の傷病者に胸骨圧迫



▲広報活動の一環で小学校での救急講座を開催



救助隊



人命救助を主要な任務とし、救助に関する高度な知識と専門技術を有しています。特殊な装備を駆使し、火災や交通事故などあらゆる災害に対応しています。



▲警察や自衛隊など他機関と連携した倒壊家屋救出



▲塔下の要救助者役をロープで引き上げる引揚救助

命や生活を守るために 大切なことは



近年は大規模な自然災害が頻発し、規模も大きく激しい傾向にあります。また、南海トラフ地震などの大規模地震の発生も危惧されています。今後も防災力の強化に向け、地域防災の核を担う消防団や関係機関と連携し、安全・安心な災害に強い地域づくりを目指していきます。

大隅肝属地区消防組合は九州では2番、県内では1番広い面積を有し、1市4町（鹿屋市・肝付町・錦江町・南大隅町・東串良町）の人口約14万人を管轄しています。新川町に消防本部を置き、3署3分署を配置し、24時間体制であらゆる災害等に備え、対応しています。

消防組合の役割

24時間、365日昼夜を問わず火災や救急などの緊急時に出動する消防士。今号では、現場の最前線で市民の生命・身体・財産を守る消防組合の活動に迫ると共に、これからの梅雨や台風などの出水期を前に災害を未然に防ぐための日頃の備えについて考えます。

出動の現状

消防業務には現場に向かう出動がありますが、大きく分けると火災・救急・救助の3つに分かれます。令和4年中の火災の出動件数は77件で、その約半数がたき火や火入れを原因とした火災となっています。また、2名の焼死者が発生しており、平成以降毎年、火災によって尊い命が失われています。

救急については7,363件、救助は53件出動しました。救急出動は10年前の出動数と比べると、16%に相当する約1,000件も増加しており、高齢化の進行も一つの大きな要因となっています。救助出動は、新型コロナウイルスの影響で外出自粛の影響もあり若干の減少傾向にあります。

それ以外にも、救急出動の支援や火災かどうか不明の煙を確認する怪煙出動、行方不明者の捜索といったその他の災害に年間約700件ほど消防車両が出動しています。

大隅肝属地区消防組合
面迫 明澄夏 消防士

小さいときから自主防災組織の幼年消防クラブに入っており、父親も上小原の消防団で活動していたことから、消防士は身近な存在でした。テレビで女性消防士の活躍を知り、地元で仕事をしたいとの想いも相まって、消防士の職に就きました。最初の仕事は、心肺停止状態の傷病者への支援出動。訓練は積んできましたが、いざ現場に入ると怖さを感じました。その後、傷病者の方は病院で復帰し、心臓マッサージの大切さ、そして私でも救える命があることを実感しました。

入署して3年、その間祖父が何度か緊急搬送されたのですが、傷病者の家族という立場から見た救急救命士の姿に、頼もしさと安心感を感じました。現在の目標は、救急救命士の資格を取ること。知識と経験を重ねて、最前線の現場で働く救急救命士になれるよう頑張ります。